

法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団
作成（所管課）	健康医療部 保健医療室 健康づくり課

## ○ 経営目標設定の考え方

### ミッション

○精度の高い検診を実施  
府民のがん検診受診率の向上や検診精度向上の観点から、専門性を活かして検診内容を充実しつつ、府民のがんによる死亡率の減少を目指す。

○公益財団法人として自立化  
中小企業に働きかけ、がん・特定健診を実施して受診率の向上と収益の向上につなげる。

#### ■ 大阪府の施策

- ・健康づくりの推進

### 基本方針

#### 1 精度の高い検診の実施

- ・ 利便性の高いがん検診を提供することにより受診者増を図る。
- ・ モデル検診機関として精密検査未受診者に対し個別通知による受診勧奨等を図る。
- ・ 検診機関が不足している市町村での集団検診の重点実施及び閑散期における検診の促進を図る。

#### 2 自立化を目指した公益財団法人の経営

検診機関不足地域での効率的な車検診の実施と、がん検診と循環器健診を併せて行う総合健診を実施し、総合的で実践的な保健指導技法を開発することにより、受診者の拡大を図り、安定的な収益構造を作り上げる。

### 戦略目標と成果測定指標【中期経営計画上の目標値】

#### ①市町村等の要望に応え検診車の効果的な稼働と精度の高い検診を実施する。

- ・ 検診車によるセット検診（乳がん・子宮がん）の実施回数  
【86回(H30実績)→95回(R3)】
- ・ 市町村の個別検診の受託件数  
【13件(H30実績)→16件(R3)】
- ・ 大腸がん（職域）検診の精検受診率  
【71.9%(H30実績)→75.0%(R3)】

#### ②受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。

- ・ 総合健診の受診者数  
【15,289人(H30実績)→15,600人(R3)】
- ・ 休日検診の実施回数  
【17回(H30実績)→24回(R3)】
- ・ 総合健診の収益額  
【269百万円(H30実績)→294百万円(R3)】
- ・ 施設におけるがん検診の収益額  
【123百万円(H30実績)→136百万円(R3)】
- ・ がん予防検診事業会計 当期正味財産増減額  
【△21百万円(H30実績)→0百万円(R3)】

## ○ 令和元年度の経営目標達成状況及び令和2年度目標設定表

## I. 最重点目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R1)	H30実績	R1目標	R2目標	ウエイト (R2)	中期経営計画 (H29～R3)		R2目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
						実績〔見込〕			R2目標	最終年度 目標	
受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。 ②	総合健診の受診者数		人	35	15,289	15,400	↓ 14,482	35	15,400	15,600	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中期計画では毎年200人増を目標としている。</li> <li>・R1実績は、目標15,400人に対し759人増の16,159人である。</li> <li>・R2目標は、R2年度4月～5月実績(216人)にR1年度6月～3月実績(14,266人)を加味し14,482人を目標とする。</li> </ul>
						16,159					
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)											具体的活動事項
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<p>○当財団は、令和3年度において収支バランスの均衡を図ることを目指した第2期中期経営計画を平成29年6月に策定し(令和元年6月改定)、達成に向け事業を進めているが、最重点とした「総合健診」は公益目的事業であるがん予防検診事業の事業収益のうち約34%(令和元年度決算・収益の内最大)を占めており、第2期中期経営目標の達成に与える影響が大きい。</p> <p>○また、当財団の設立目的は、府民の死亡原因の上位を占めるがんと循環器の予防を目指した事業を推進することであるが、「総合健診」は、まさにこの目的に沿った事業であり、その推進は府民の健康の保持・増進に寄与するものである。</p>										<p>○トップセールスをはじめ営業活動の強化による新たな契約団体の獲得</p> <p>○平成29年2月に「人間ドック健診施設機能評価」の認定を受け、同年5月には「優良人間ドック・検査施設」として一般社団法人日本病院会及び公益社団法人日本人間ドック学会の連名指定を受けた。こうした認定及び指定をもとに、積極的に各健保組合に営業活動を行う。</p>
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○受診者数の多い大規模団体が毎年入札を実施しているが、新しい検診機関が参加することにより年々単価が低下している。公益目的事業として健診の質(精度)を確保しつつ、他の検診機関との価格競争を行わざるを得ない環境になっている。このため、一つの大規模団体に頼らない収益構造に転換していく必要がある。</p> <p>○当財団では多くの団体の検診を受託し、団体の希望に応じた健診メニューを手作業処理しており、業務の効率化が課題となっている。</p> <p>○施設構造が人間ドックのような検査項目の多い健診に対応しておらず、受診者が多くなると各所において待ち時間が発生するため、効率良く受診者を移動させることが課題である。</p>										<p>○顧客の定着を図るためのダイレクトメール等の取組み(過去に受診歴があり直近年受診歴のない方等)</p> <p>○午後検診の実施による受診者の確保(胃内視鏡検診に加え、令和元年度から子宮がん検診、総合健診時の特定保健指導等についても追加実施)</p> <p>○検診業務の効率化を図るため、契約に当たってはできるだけ標準的な健診メニューの交渉をする。</p>
活動方針	<p>○第2期中期経営計画において、令和3年度の財団のあるべき姿として、</p> <p>①府民をがんから守る、精度の高い検診機関 ②府民の健康づくりを支援する分析・研究機能の発揮 ③経営の自立化</p> <p>を掲げている。全職員がこの目標の達成を目指し、公益財団法人としての使命を認識し、府民の健康増進のため、総合健診をはじめ精度の高いがん検診と循環器健診を推進するとともに、効率的・効果的な検診(健診)を実施することにより、経営の抜本的改善を図る。</p>										<p>○検診(健診)実施に当たっては、コロナウイルス感染症対策に適切に対応し実施することにより安全安心をアピールする。(「3密」(密閉、密集、密接)を可能な限り回避することにより受診環境の確保に努める。))</p>

Ⅱ. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R1)	H30実績	R1目標	R2目標	ウエイト (R2)	中期経営計画 (H29～R3)		R2目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						実績[見込]			R2目標	最終年度 目標		
① 市町村等の要望に応え検診車の効果的な稼働と精度の高い検診を実施する	検診車によるセット検診(乳がん・子宮がん)の実施回数		回	10	86	89 91	94	10	92	95	・中期計画では前年実績比3回増を目標としている。 ・R2目標は、R1実績91回比3回増の94回とする。	・市町村が検診計画を作成する前に、実施可能であることのPRを行う。 ・午前中から子宮がん・乳がんのセット検診を実施することにより、受診者の増加を図る。
	市町村の個別検診の受託件数		件	10	13	14 14	15	10	15	16	・中期計画では前年実績比1市町村増を目標としている。 ・R2目標は、R1実績14市町村比1増の15市町村とする。	・個別検診の意向のある市町村に対し、積極的な働きかけを行う。
	大腸がん(職域)検診の精検受診率(精検受診者数/要精検者数)		%	10	71.9	72.0 72.7	73.5	10	73.5	75.0	・中期計画R2目標は前年目標比1.5ポイント増としている。 ・R2目標は、R1目標72.0%比1.5ポイント増の73.5%とする。	・未受診者への個別の受診勧奨の一層の推進と、他の検診機関での受診状況の把握の徹底を行う。
② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る	休日検診の実施回数		回	10	17	22 22	24	10	24	24	・中期計画R2目標は前年実績比2回増としている。 ・R2目標は、R1実績22回比2回増の24回とする。	・土曜日の子宮がん・乳がん検診の実施、オプション検査の拡大について、市町村等へのPRを積極的に行う。 ・女性医師の確保に努める。

Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る	総合健診の収益額		百万円	10	269	287 300	↓ 270	10	288	294	・R1実績は目標比13百万円増している。 ・R2目標は、コロナ感染症影響を加味しR2年度4・5月実績(4,018千円)にR1年度6～3月実績(265,419千円)を加味し270百万円(269,437千円)とする。	・人間ドック健診等収益率の高い総合健診(特定保健指導受診勧奨等)の増加を図ることにより経営状況の改善を図る。
	施設におけるがん検診の収益額		百万円	5	123	132 × 127	↓ 113	5	134	136	・R1実績はコロナ感染症影響により目標比5百万円減している。 ・R2目標は、R2年度4月～5月実績(1,255千円)にR1年度6月～3月実績(111,963千円)を加味し113百万円(113,219千円)とする。	・府民のがんの早期発見に寄与し、精度の高い各種がん検診を実施する。 ・胃・大腸・乳・子宮及び肺がん検診受診者の増加を図ることにより経営状況の改善を図る。
	がん予防検診事業会計 当期正味財産増減額		百万円	10	△ 21	△ 21 1	↓ △ 37	10	△ 14	0	・R1実績は、目標比22百万円改善の1百万円である。 R2目標は、新型コロナウイルスの影響を受けて検診中止に伴う収益及び費用の減少を見込み、収益 876百万円、費用 913百万円となることから、△37百万円とする。	・収益確保のための取組みとして、総合健診受診者数の増、休日検診の実施、オプション検査の拡大、午後検診枠の拡大、車検診(セット検診)の効率的運営を図る。 ・経費削減の取組みとして、常勤職員の更なる活用、入札や価格交渉による支出額削減、医療材料費の削減、時間外手当の削減を図る。 ・施設設備の修繕や検診機器の更新が課題

【凡例】  
 ・☆はR2年度からの新規項目  
 ・×は目標値未達成  
 ・↓は前年度実績比マイナスの目標値  
 ・[ ]内の数値は、参考として記入した実績見込値  
 ・( )内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

公益財団法人 大阪府保健医療財団

## CS調査の実施概要

## ○ 令和元年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
大阪がん循環器病予防センターにおける健（検）診の満足度	受付で調査票を配布し、受診者が自書のうえ回収箱に投かん。	・施設検診受診者	501人	令和元年10月

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組	令和2年度にめざす状態
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診者は40歳以上が86.0%を占めており、世代別では40歳代が31.1%、50歳代が28.1%、60歳17.4%、その他14.0%となっている。性別では、女性(胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮がん)が54.7%、男性(胃がん、肺がん、大腸がん)45.3%の割合。</li> <li>・受診した健（検）診で大腸がん検診者が最も多く、受診者全体の47.7%を占める。また、毎年受診しているが最多で、受診者の44.1%を占める。</li> <li>・検診スタッフの言動と態度について、満足89.1%、ほぼ満足5.7%で、合わせて94.8%、前回に比べ0.6ポイント減少した。</li> <li>・診察、健診等の十分な説明については、満足90.3%、ほぼ満足6.5%で、合わせて96.8%で前回と同様の結果となった。</li> <li>・健診にかかった時間については、「思ったより早く受診できた」45.0%、「普通」44.6%、「思った以上に時間がかかった」10.4%で、「思ったより早く受診できた」が前年より2.5ポイント増加、「思った以上に時間がかかった」が3.6ポイント増加した。</li> <li>・次回もセンターを受診したいと思うかについては、92.6%の受診者が「次回もセンターを受診したい」と回答。</li> <li>・当センターに対する要望、改善点については、「説明や対応の仕方」、「待ち時間」、「空調」、の順に改善を望む声が多かった。40.0%は「感謝・満足・励まし」と回答。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果を職員に周知し、各所属において満足していない原因について認識するとともに改善方策について討議を行い、改善できるものについては、直ちに対応した。</li> </ul>	<p>個別に記述された意見等を分析し、改善点に結び付けていくとともに、引き続き満足度を高めるよう努力する。</p>

## ○ 令和2年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
大阪がん循環器病予防センターにおける健（検）診の満足度	受付で調査票を配布し、受診者が自書のうえ回収箱に投かん。	・車検診受診者	500人	令和2年10月

## ■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の 目標値	R元年度の 実績値(見込値)
施設におけるがん検診の 収益額	百万円	132	127

## 未達成の要因と分析

○政府による「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」決定や発生事例報道頻度の増加とともに検診受診中止や受診控えが急増した。

○政府の基本方針決定により、大阪府からの「新型コロナウイルス感染症の感染事例の発生に伴う健康増進事業の実施に係る対応について」（市町村長あて通知）を受け、住民検診実施主体の市町村個別検診受診者数の減少に加え、事業者団体の受診控えもあり大幅な受診減少となった。

（参考）

○年間収益

H30年度：123,728千円

R1年度：127,415千円（H30年度比 3,687千円増）

○2月～3月収益

H30年度：28,235千円

R1年度：24,537千円（H30年度比 3,698千円減）

※R1年度目標：30,220千円（R1年度目標比 5,683千円減）

## 今後の改善方策

○緊急事態宣言解除を受け、検診（健診）実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症対策に適切に対応し実施することにより安全安心をアピールする。（「3密」〈密閉、密集、密接〉を回避することにより受診環境の確保に努める。）

○個別検診の意向のある市町村に対し、積極的な働きかけを行い受託市町村数の増（R1:14市町村→R2:15市町村）に努め、受診者の増加を図る。

○受診枠の拡大、休日検診実施回数増（R1:22回→R2:24回）による受診者の増加を図る。

## ■ 令和元年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R元年度の 実績値(見込値)	R2年度の目標値
総合健診の受診者数	人	16,159	14,482

<b>マイナス（現状維持）目標の考え方</b>	<p>○新型コロナウイルス感染症等対策特別措置法に基づく緊急事態措置期間中（令和2年4月7日～令和2年5月22日(延長期間含む)）は、特定健康診査等を行わないこととする厚生労働省通知「新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言を踏まえた特定健康診査・特定保健指導等における対応について」を受けて検診（健診）を中止した。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響による今後見込みが困難であることから、R2年度目標はR2年度4月～5月実績（216人）にR1年度6月～3月実績（14,266人）を加味し14,482人とする。</p> <p>○今後、過去に受診歴があり直近年受診歴のない方に対しダイレクトメールの取り組みやトップセールス等により受診者増を図る。</p>
-------------------------	---

〔2〕

成果測定指標	単位	R元年度の 実績値(見込値)	R2年度の目標値
総合健診の収益額	百万円	300	278

<b>マイナス（現状維持）目標の考え方</b>	<p>○新型コロナウイルス感染症等対策特別措置法に基づく緊急事態措置期間中（令和2年4月7日～令和2年5月22日(延長期間含む)）は、特定健康診査等を行わないこととする厚生労働省通知「新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言を踏まえた特定健康診査・特定保健指導等における対応について」を受けて検診（健診）を中止した。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響による今後見込みが困難であることから、R2年度目標はR2年度4月～5月実績（4,018千円）にR1年度6月～3月実績（265,419千円）を加味し270百万円（269,437千円）とする。</p> <p>○今後、過去に受診歴があり直近年受診歴のない方に対しダイレクトメールの取り組みやトップセールス等により受診者増を図る。</p>
-------------------------	--



### ■ 令和元年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R元年度の 実績値〔見込値〕	R2年度の目標値
施設におけるがん検診の 収益額	百万円	127	113

マイナス（現状維持）目 標の考え方	<p>○政府の基本方針決定により、大阪府からの「新型コロナウイルス感染症の感染事例の発生に伴う健康増進事業の実施に係る対応について」（市町村長あて通知）を受け、住民検診実施主体の市町村個別検診受診者数の減少に加え、事業者団体の受診控えもあり大幅な受診減少となった。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響による今後見込みが困難であることから、R2年度目標はR2年度4月～5月実績（1,255千円）にR1年度6月～3月実績（111,963千円）を加味し113百万円（113,219千円）とする。</p> <p>○今後、過去に受診歴があり直近年受診歴のない方に対しダイレクトメール等の取り組みやトップセールス等により受診者増を図る。</p>
----------------------	--

〔4〕

成果測定指標	単位	R元年度の 実績値〔見込値〕	R2年度の目標値
がん予防検診事業会計 当期正味財産増減額	百万円	1	△ 37

マイナス（現状維持）目 標の考え方	<p>①収益見込は、新型コロナウイルス感染症の影響による今後見込みが困難であることから、R2年度目標はR2年度4月～5月実績にR1年度6月～3月実績を加味し収益を876百万円（検診中止△73（総合健診△22、施設におけるがん検診の収益△16、車検診及び精密検診△35）、雇用調整助成金+17）と見込む。</p> <p>②費用見込は、R2年度検診中止に伴う費用の減33百万円（総合健診△8、施設におけるがん検診△8、車検診及び精密検診△17）を加味し913百万円と見込む。</p> <p>③上記①収益見込②費用見込の結果、がん予防検診事業会計当期正味財産増減額を△37百万円に設定する。</p> <p>①収益 876百万円（検診中止△73百万円、助成金+17百万円反映後） ②費用 913百万円（検診中止△33百万円反映後） ③ △37百万円（当期正味財産増減額 ①－②）</p>
----------------------	---